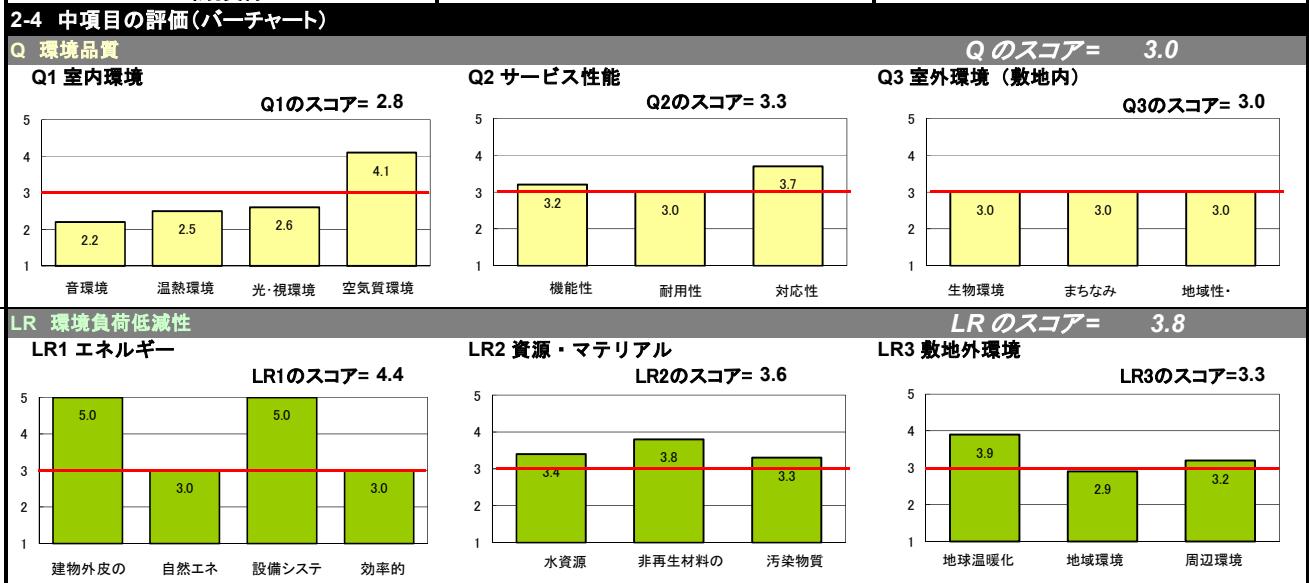
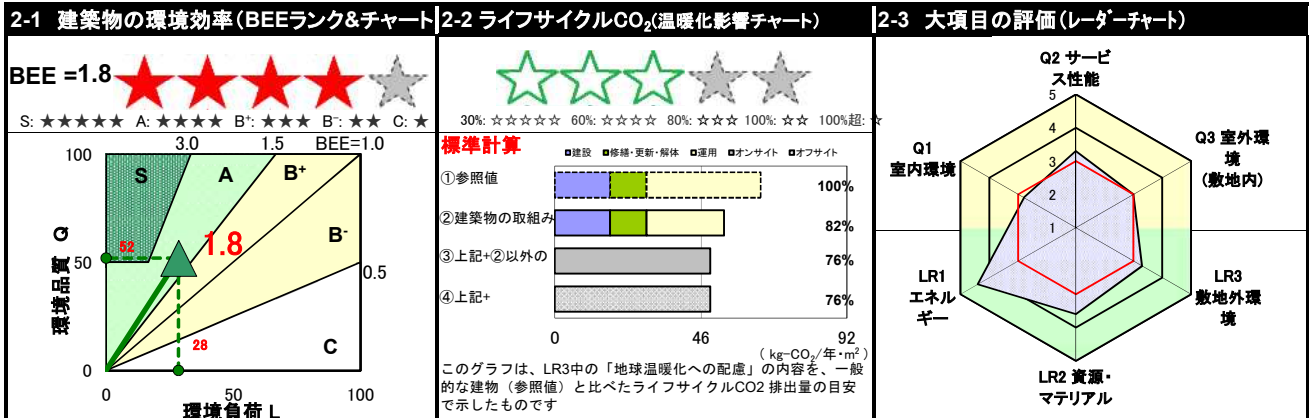


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松ホトニクス株式会社 都田製作所第4棟	階数	地上4F
建設地	静岡県浜松市浜名区新都田一丁目	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	39 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,658 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年7月 竣工	評価の実施日	2024年7月12日
敷地面積	2,904 m ²	作成者	新古和孝
建築面積	1,784 m ²	確認日	2024年7月12日
延床面積	6,720 m ²	確認者	中原健二郎



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・天井裏設備ヤードにより、設備機器の維持管理、更新、修繕に配慮している		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・事務室の換気量は30m ³ /h/人を確保している ・禁煙	・外壁は防汚性の高いフッ素樹脂塗装とし、維持管理に配慮している ・清掃作業を効率的に行えるよう、掃除用流しは各階に設置 ・天井裏設備ヤードにより、仕上げ材を痛めることなく、空調配管の更新・修繕が可能	・空地率40%以上と、敷地内に風の通り道を確保している ・室外機はほとんどをGL+10m以上の位置に設置しており、敷地内歩行者空間の暑熱環境に配慮している
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・BPI _m =0.60 ・BEI _m =0.56	・水栓は節水こまタイプ、便器は節水型により節水に配慮している ・ビニル床材は、グリーン購入法適合品およびエコマーク認定品を使用する ・躯体+LGS+仕上げ材で、躯体と仕上げ材は容易に分別可能	・室内にゴミを分別回収可能な容器の設置を計画しており、廃棄物の分別回収に配慮している ・広告物照明の設置はなし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	(仮称)浜松ホトニクス株式会社 都田製作所 第4 棟新築工事	BEE	1.8	BEEランク	A	★★★★
------	--------------------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.9 /5	    	ふつう 
“災害に強いすおか”の形成 (Disaster)	3.0 /5	    	ふつう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.3 /5	    	ふつう 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.0 /5	    	ふつう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
		がんばろう 3 点未満 	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.9
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①屋根U=0.5(W/m ² K)、外壁U=0.5(W/m ² K) ③ブラインドにより昼光を制御できる ④ステンレスダクトの使用で長寿命化	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥室外機はほとんどをGL+10m以上の位置に設置しており、敷地内歩行者空間の暑熱環境に配慮している	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦BPI _m =0.60	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪給水器具の過半に節水型器具を採用しており、節水に配慮している ⑫ビニル床材、断熱材、天井ボードは、グリーン購入法適合品およびエコマーク認定品を使用する ⑬躯体+LGS+仕上げ材で、躯体と仕上げ材は容易に分別できる ⑬ODP=0かつGWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮建物高さ、卓越風向に沿う敷地境界からの後退距離、より算出する隣棟間隔指標が0.5以上と、建物後流域での風の回復促進に配慮している	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いすおか”の形成(Disaster)		得点	3.0
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰給水器具の過半に節水型器具を採用しており、災害時の上水有効利用に配慮している ⑰浸水の危険性が低く、電源設備や精密機器の浸水による情報網の損傷を回避している	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“すおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.3
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高は、工場部分5.1m以上とゆとりがある ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑設計定例で建物利用者の要望事項を打合せ設計に反映している	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	3.0
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) — ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) —	Q-3 1 2 3 3.2 LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善